

予算決算常任委員会審査報告書

令和2年9月24日

飯綱町議会議長 大川 憲明 様

予算決算常任委員会委員長 渡邊 千賀 雄

本委員会に付託の事件は、審査の結果、下記のとおり決定したので会議規則第77条の規定により報告します。

記

事件番号	件名	審査の結果
議案第62号	令和元年度飯綱町一般会計歳入歳出決算の認定について	認定
議案第73号	令和2年度飯綱町一般会計補正予算（第4号）	可決

次に本委員会の審査の経過及び主な質疑について報告します。

○議案第62号 令和元年度飯綱町一般会計歳入歳出決算の認定について

【総務産業小委員会審査報告書に対する質疑】

質 疑：なし

【福祉文教小委員会審査報告書に対する質疑】

質 疑：なし

討 論：なし

採決の結果：賛成多数で認定とした。

○議案第73号 令和2年度飯綱町一般会計補正予算（第4号）

質疑①：予備費の活用方法についての考えは。

回答①：予備費については、例年、9月議会の時点で1億から1億5,000万円を備えておきたいと思っている。冬期の除雪費用や台風等の災害時の費用を勘案し、1億円以下では心配である。なお、コロナ対応については、国から配分される交付金に余裕があると承知しているため、第3次分として今後提案する見込み。コロナについては、特別な事情がない限り、現状の交付金の中で対応できると考えている。

質疑②：コロナ対応の交付金を基金に積んで活用する自治体もあると聞いている。

信濃町でも同様な対応を検討していると聞いている。当町としての考えは。

回答②：交付金を自由に基金に積んで、繰り越して活用して良いということではないと承知している。基金に積むにはそれなりの理由が必要。例えば、商工業の振興資金は、基金としてからの活用が可能である。借入後の5年間の利子補給について、次年度以降分の財源として基金に積み立てることは可能。基金への積立てについては、関係部署と検討する。

質疑③：コロナ対応交付金関係で、今回、約1億5,700万円という補正予算が組まれている。当町の総額は。また、コロナにより、経済的、社会的に新しい形が求められているため、対応が必要。特に企画課関係、例えば移住定住促進策や仕事をどのように確保できるかが重要と考える。各自治体が同様な施策を実施し、人を呼び込もうと競争が始まっている。遅れをとらないようにすべき。当町でも既に旧小学校の有効活用という流れの中で様々な施策が始まっている。これらを有効活用しながら、スピード感のある対応を期待する。現在、具体的にどのような事業を開始しているか。

回答③：コロナ対応交付金の配分額は、補正予算第2号に計上した第1次分が89,326,000円、今回の補正で計上した第2次のうち、事業継続への対応分が41,346,000円、新しい生活様式への対応分が189,764,000円、合計の交付限度額は320,436,000円である。

移住関連の課題は、住む場所の確保、そして情報発信の仕組作りであり、現在、解決に力を注いでいる。空き家関係については、町内にある300軒程度の空き家を調査し、7軒の不動産を商品化し、うち既に2軒が成立済み、残り5軒を町のホームページに空き家物件として情報提供している。以前、議員から提言があったとおり、移住のページがわかりづらいため、今回の補正で移住サイトの構築費用を計上している。新設するサイトには、町が把握している空き家物件及び民間の物件並びに町営住宅など、すべての住居情報、移住関係の各種補助制度、求人情報を含む仕事の情報、移住者の声など、移住者の求める情報を一元的に掲載する予定である。また、現在、

対面での移住相談ができなくなっているため、オンラインで移住相談や就農相談ができるシステムを構築していきたいと考えている。仕事の関係でコワーキングスペースについて、既にいいづなコネクトEASTで運用し始めており、順調な滑り出しである。今回の補正で、いいづなコネクトWESTにもコワーキングスペースを整備し、ワーケーションやリゾートテレワークに対応したい。

質疑④：4款衛生費で病院施設費の詳細は。

回答④：病院施設費として37,000,000円計上した。別紙として配付した臨時交付金事業の資料に記載のとおり、一般会計から繰出金として病院会計へ支出する。内容は、検査機器等の導入や発熱外来診察室整備、経営運営補助としている。

病院事業会計補正予算の際に説明したが、うち25,000,000円は、経営上の減収分に充てる。残りの12,000,000円は、抗原検査ができる検査器械の購入や透析の器械、歯科の器械、また発熱外来の整備に充てる。

討 論：なし

採決の結果：全員賛成で可決とした。

以上